

足もとにご注意!! オニダルマオコゼ

毒トゲをもつ魚オニダルマオコゼ

沖縄の海には様々な生物がありますが、なかには毒トゲをもつ魚も存在します。その代表がオコゼの仲間で、背ビレなどに複数の毒トゲを持っています。オコゼの仲間で特に毒性が強いと言われているのがオニダルマオコゼです(写真 1)。オニダルマオコゼは一見して石のように見えることから、英語では「Stone Fish(石の魚)」と呼ばれています。全長は約 40cm、海底にじっとしていることが多く、砂などに潜っている場合もあるので気づかずに足で踏んでしまうことがあります(写真 1b)。オニダルマオコゼは水深数 10cm の浅いところにもいるので、浅瀬でも注意しましょう。

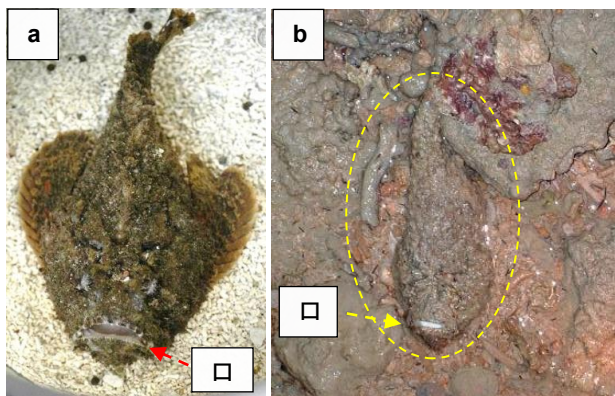


写真 1. (a)背面外観、(b)砂の中に潜る様子

ヒレにある鋭い毒トゲ

オニダルマオコゼは背ビレに 13 本(写真 2a,b)、腹ビレに 2 本、尻ビレに 3 本の毒トゲを持っています。毒トゲは長いもので 3~4cm 程度あり、通常のマリンブーツやサンダルなどは貫通してしまいます。毒はトゲの下部にある袋状の部分(毒のう)にあり、トゲが刺さると破れて毒が体内に入る仕組みになっています(写真 2c)。被害は毒トゲを足で踏んだり、手で触ったりすることで起きます¹⁾。

命にも関わる強力な毒

オニダルマオコゼの毒は非常に強い毒性を持つことが知られています。主な症状は、局所症状(刺された部位付近での症状)としては激しい痛み、腫れなどがあります。全身症状(体全体の症状)としては血圧低下や呼吸困難が起こり、時に死亡することもあります¹⁾。沖縄県で

は毎年数件の被害が報告されており、過去にオニダルマオコゼ刺症によると疑われる死亡事例が 2 件報告されています²⁾。オニダルマオコゼの毒性を調べた研究では、マウス実験の結果から 3 本程度のトゲの毒が人間の体内に入ると死亡する可能性があると考えられています³⁾。

被害を防ぐためには

オニダルマオコゼは石のような外見や砂に潜る習性から、大変見つけにくく、被害を防ぐことが難しい魚です。そのため、管理者がいて危険生物のチェックを行っている遊泳区域などの場所で遊泳することが、被害のリスクを減らすために有効と考えられます。また、トゲが貫通しないような厚いゴム底の靴を使用すると被害を防ぐことができます¹⁾。

もし刺されてしまったら

刺されてしまった場合の応急処置としては、約 42~45℃程度のお湯に 30~90 分程度、患部をつけると痛みがやわらぐとされています¹⁾。オニダルマオコゼは死亡事例や重症事例もありますので^{1,2)}、刺されてしまった場合はすぐに病院に行くようにしてください。もし刺された人が意識を失った場合は、ただちに心肺蘇生法を開始してください。海に入る際は、きれいな空や海だけでなく、

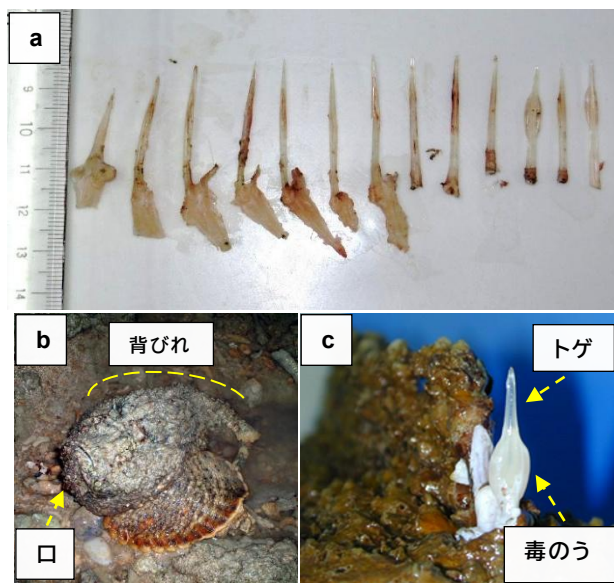


写真 2. (a)背ビレの 13 本のトゲ、(b)背ビレの位置、(c)トゲと毒のう

足元にも注意して楽しんでください。

参考資料

- 1)上里博(2013)海洋危険生物による皮膚障害(Ⅱ). 西日本皮膚科, 75(1):36-57.
- 2)神谷大二郎・國吉杏子・安座間安仙・玉那覇康二(2012) 沖縄県で発生したオコゼ類による被害-オコゼ類による死亡事故-. 平成 22～23 年度ハブクラゲ等危害防止対策事業報告書, 沖縄県衛生環境研究所, 沖縄県, pp.15-17.
- 3)塩見一雄・長島裕二(2013)魚類刺毒-クラゲ毒と並んで危険な刺毒-. -新・海洋動物の毒-フグからイソギンチャクまで, 成山堂, 東京都, pp.69-82.

【衛生科学班】